

ときがわ町高齢者インフルエンザ予防接種（説明書）

<注意> 接種を受ける前に必ずお読みになり、ご理解のうえ接種を受けてください。

下記項目は、インフルエンザ予防接種ガイドライン等検討委員会・厚生労働省健康局結核感染症課の資料に基づき作成したものです。

インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスの感染によって起こります。

インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをする事により、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。

インフルエンザの症状

突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。

普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。

気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。

インフルエンザの予防

予防の基本は、流行前に予防接種を受けることです。

インフルエンザは空気中に拡散されたウイルスによって感染しますから、予防のためには、人込みは避けましょう。また、十分な栄養や休養をとることも大切です。

インフルエンザ感染の広がりには空気の乾燥が関連しています。室内は加湿器などで加湿しましょう。外出時のマスクや帰宅時のうがい、手洗いは普通のかぜの予防と併せておすすめします。

インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザ予防接種の有効性は我が国においても高齢者の発病防止や重症化防止に有効であることが認められています。

予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間ほどかかり、効果の持続期間は約5か月間とされています。

インフルエンザウイルスは毎年変化しながら流行するため、毎年流行が予測されるウイルスにあった予防接種を早めに受けておくことが効果的です。

インフルエンザの予防接種の副反応

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、腫れたり、痛んだりすることがありますが、通常は2～3日のうちに治ります。また、僅かながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられ、通常は2～3日のうちに治ります。また、接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れる等の報告があります。

接種対象者

法律で決められたインフルエンザ予防接種の対象者は下記のとおりです。

※町内に住所を有する人で、次のいずれかに該当し、ご本人が接種を希望する場合

- ① 接種時に65歳以上の方
- ② 接種時に、60歳以上65歳未満で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に障害のある方

予防接種を受ける前に

(1) 一般的な注意

インフルエンザの予防接種について、説明書をよく読み、必要性や副反応についてよく理解

しましょう。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に質問（担当医師又は保健センター）しましょう。十分に納得のできない場合は、接種を受けないで下さい。予診票は、接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受けるご本人が責任を持って正しく記入してください。

(2) 予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱のある方（一般的に、体温が37.5℃を超える場合を指します。）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
（急性の病気で薬を飲むことが必要な方は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性があるため、その日は見合わせるのが原則です。）
- ③ インフルエンザ予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな方。「アナフィラキシー」とは通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身のジンマシン、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状が続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。
- ④ インフルエンザの予防接種で、接種後2日以内に発熱の見られた者及び全身性の発疹等のアレルギーを疑う病状を呈したことがある方
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がされている方
- ⑥ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

(3) 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない方

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他の慢性の病気で治療を受けている方
- ② 今までにけいれんを起こしたことがある方
- ③ 今までに喘息と診断されたことがある方
- ④ インフルエンザ予防接種の成分又は、鶏卵、鶏肉その他鶏由来の物に対して、アレルギーがあるといわれたことがある方

(4) 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応があることがあります。医師（医療機関と）とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② インフルエンザの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強く擦ることはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動や多量の飲酒は避けましょう。

副反応が起こった場合

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、他の病気がたまたま重なって現れることがあります。

予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のジンマシン、繰り返す嘔吐（おうと）、顔色の悪さ、高熱などが現れたら、医師（医療機関）の診療を受けてください。その他、わからないことがありましたら下記にお問い合わせください。

予防接種健康被害救済制度について

定期の予防接種が原因で生活に支障が出るような後遺症等の健康被害が生じた場合、医療費及び医療手当等、予防接種法に基づく救済制度が適用されます。但し、その健康被害が予防接種によるものであることが専門家による審査会で審議され厚生労働大臣が認定した場合に限ります。

問合せ先 : ときがわ町保健センター
電 話 0493-65-1010 (直)